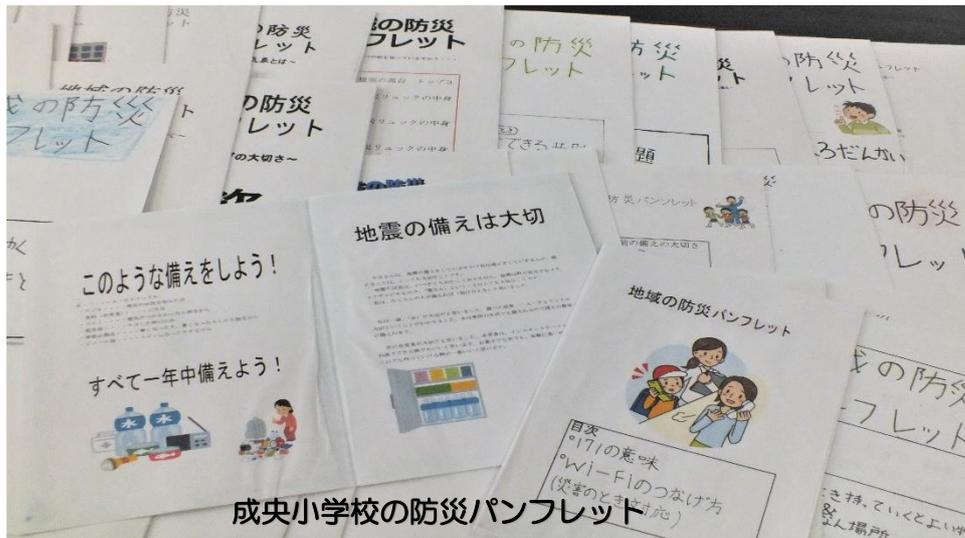


9月は防災月間 家族で防災について話そう！
小学生が作った防災パンフレットを紹介



成央小学校の防災パンフレット

成央と北斗両小学校の6年生が、国語の授業などで防災パンフレットを制作。どれも力作で、児童の作品を通して、家族で改めて防災について話し合ってみませんか？

ささえあいの地域づくり情報誌

ささえあい

2020.9 第8号

発行：社会福祉法人
根室市社会福祉協議会
(生活支援体制整備事業)
〒087-0008

根室市有磯町2-6

☎ 24-0381

FAX 24-0551



合い言葉は

少しだけ

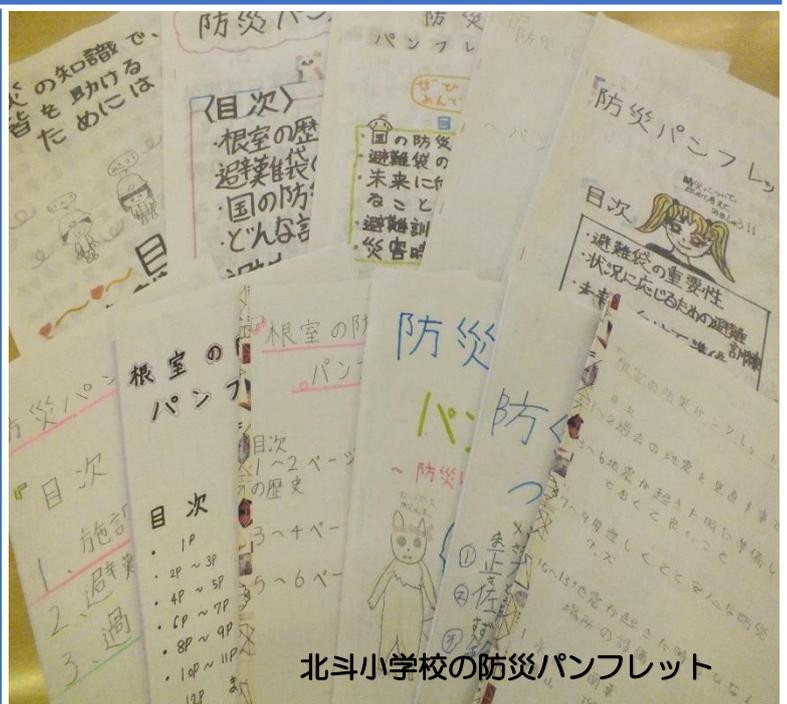
おせっかい

●パンフレットは8月末まで根室市図書館の「今月の本棚」コーナーに展示されました。

成央小は、6年生63人がそれぞれA4版4ページのパンフレットを制作。このうち約20人の作品をB5版サイズにコピーし、市役所や市総合文化会館など5カ所に置いて自由に持ち帰れるようにしました。児童の一人、高屋敷ゆうあさんは災害時に使えるWi-Fiのつなげ方と、災害用伝言ダイヤル(171)について紹介。家族にも相談して作り「防災の知識として広がって欲しい」との思いを込めました。杉村心寧さんは防災バックの必要性とその中身について説明しました。インターネットやハザードマップなどを使って調べ「多くの人にわかりやすく伝えたかった」と話していました。

北斗小は6年生48人が4~5人のグループごとに、A4版7~8頁の防災パンフレットを完成。国語の授業と総合学習の時間を活用しました。

横山瑠璃さんは、避難場所や避難の方法などを仲間とまとめました。「これを読んだ人が防災に関心を持ち、災害時にすぐ避難できるようになってほしい」と願う。一方、猪爪陽菜さんのグループは避難袋について調査。パンフレットは「みんなで協力した成果があらわれている」と胸を張り、家族も防災に取り組んでくれたと喜ぶ。



北斗小学校の防災パンフレット



～秋の夜長に・・・～

家にいることがいつもより多い秋
日々考えていること、
見たこと聞いたこと、
かけがえのないあなただけの思い出を

文章にしてみませんか？

文章の書き方のコツを教えてくれるのは

元小学校校長

根室・わたすげの会代表

さだかた
飯倉 定賢さん



●書きたいことから書く

文章は、「書きたい」ことから書くのが大切です。初めはどうしても順序正しく書こうとしがちですが、これがなかなか難しい。

感動したこと、1番書きたいことをまず書いて、前後や細かなことはあとからゆっくりと書けば良い。文章を書くことは特殊な技能が必要だと思っている人がいますが、そんなことはない。誰でも書けるものなんですよ。

●立派なことを書こうとしない

「立派なことを書こう」と思ってはダメです。周りに起きていることをリアルに素直に書けることが大切なんです。無理して立派なことを書いても、表現したいこと、言いたいことが相手に届きません。

文章は黙って書いて書けるものではなく、書き手の素顔や感性が発揮できます。そこが「文章を書くこと」の魅力です。

●省略しない・無理にまとめない

文章を書き慣れていない人は、どうしてもまとめることが先に立ち、いろいろな事柄を「たいしたことではない」と考えて省略してしまうことが多い。でも、省略しないで書くことで書く力がつきます。人の暮らしは人さまさまで、だからこそ良いのです。気付けば幾らでも「書く材料」は出てきます。

●自分の周りの風景を書いてみる

まず、自分の周りの風景などを書いてみましょう。例えば「朝から今までのこと」「ここに来るまでの過程」など。短時間でも意外に多くのエピソードがあり、身近なことを書くことで「書けた！」という自信になります。筆記用具と紙があればいつでもどこでも始められますよ。

根室・わたすげの会は同人誌「わたすげ」を年1回発行。現在会員は8人で詩や短歌、俳句、川柳、創作、エッセイ、郷土史など幅広いジャンルの作品を発表しています。最新号の第28号は1冊1100円で、市内昭和町のリラブ根室店で取り扱っています。次号の発行は来年夏頃を予定。「何か書いてみたい」という人、同会に興味関心がある方は飯倉代表(23-2108)、または事務局の別所三夫さん(080-6099-1084)まで。

